

---

# 第2版の序



KEY BOOKシリーズ『肝胆膵の画像診断 — CT, MRIを中心に—』の初版が刊行されたのは2010年である。初版の序でも述べられているが、肝胆膵の画像診断はわが国が世界を引っ張っており、その知見を書物として世の中に紹介したいということで本は編集された。おかげさまで初版は肝胆膵画像診断の定番の書籍としての位置を勝ち取り、多くの読者を得ることができた。世界的にみても、おそらくこのような内容の濃い肝胆膵の本はないであろう。

初版の出版後、12年が経ち、肝胆膵領域の臨床ならびに画像診断においても様々な進歩がみられた。新しい疾患概念や肝細胞癌の多段階発癌や肝特異性造影剤の知見も深まってきた。肝臓癌では分子標的治療が広く行われるようになり、また一部の腫瘍の起源も明らかとなった。またCTやMRIの撮像技術も大きく進歩している。dual energy CTや逐次近似法、MRI撮像の高速化や拡散強調像の発展などがみられ、詳細な解剖学的情報に加えて血行動態解析や機能情報も加わったことで、日常の画像診断のプラクティスにも様々な変化がみられるようになった。

今回の改訂に当たってはこの領域のナンバーワンの書籍の地位をさらに確かなものにするために、新しい概念の疾患や新知見をできるだけ取り入れ、わが国の肝胆膵領域の画像診断のトップの先生方に執筆していただいた。また編集においても初版は山下が一人で行ったが、さすがにとても一人ではカバーできず、改訂版においては肝臓を伊東が、膵臓を藤永が、胆道と脾臓を山下が担当した。執筆者も54名となり、ページ数も前回の519ページから656ページへと大きく増加し、かつ情報量も非常に増えている。まさに肝胆膵画像診断の決定版になったと確信している。

最後にこの書籍の執筆にあたっていただいた全国の先生方、ならびに企画・編集に尽力してくれた学研メディカル秀潤社 画像診断編集室の皆様にご心より御礼を申し上げます。

2022年3月

山下康行  
伊東克能  
藤永康成

追記 本書の執筆者の一人であられる東京大学の前田恵理子先生は長い間、ご病気と闘ってこられました。本書の完成直前に逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。なお、最後の校閲は山下が代理で行いました。

---